

第7号

定価一年間300円
組合員の購読料は
組合費に含む



発行

檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町86-1
Tel 0139(52)0858 FAX(52)1490
発行責任者 石橋英敏
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

教育全国署名檜山でも

すべての子どもたちにゆきとどいた教育を求め、全国の署名(同連絡会提起)が檜山でも開始されました。11月末までの集約をめざします。

同署名が実施されて30年、当初から檜山でも取り組まれてきました。これまでの署名累計は40万筆弱になります。90年代には、管内人口の4割強、有権者比5割の署名が寄せられていました。全国で2千万を大きく超える署名が集められ、文科省の概算要求や国の政策実現に反映されてきました。

この間、40人学級が完全実施され(それまでは45人学級)、同時に自治体独自の少人数学級の実施も広がりました(国の標準は小1のみ35人、42都道府県で独自に実施)。しかし、地方財政は厳しく、国の改善が急がれます。(グラフ参照)

教育無償化も要求の大きな柱です。高校授業料や就学への支



安心して学べる学校に

ご協力ください

援、給付型奨学金の創設などが実現してきました。これまでも留保していた国際人権規約の「無償教育条項」を、日本政府は、世論に押され12

年によりやく撤廃しました。どの子ども安心して学校で学べる教育、その条件づくりは国民的な願いです。教育全国署名の歴史的成果にも目を向け、今年も多くのご協力をよろしくお願ひします。

小学校教科担任に措置 教職員数は実質減に

文科省
概算要求

文科省は8月29日、20年度概算要求を発表しました。小学校高学年における教科担任制への先行対応として2090人、小学校英語専科

1000人、中学校生徒指導体制強化670人などを計上しました。一方、加配定数見直しで1000人減、自然減2249人を見込み、実質14人減員となります。(次号で詳報)

2019檜山合同教育研究領域等集会



報告を聴く参加者

8月31日、檜山合同教育研究領域等集会(同すずめる会主催)が開催されました。22名が参加しました。

「子どもを支えるつながり」を実感

冒頭あいさつ、子どもと現場の事実と向き合う教育研究の重要性を訴えました。

笹原昌子さん(瀬棚中学校)が「子どもに寄り添う教育、教師の仕事」と題して実践報告を行いました。子どもの声や親の願いに「いねい」に向き合い、思いが耕されていく様子がリアルに語られました。

折々の学級通信に載せられた子どもや親たちの声が紹介され、表現、発信、交流しながら紡がれていく人と人との生きた関係性が説得力をもって明かされました。「保護者や学校同僚の理解と協力を大事にし、事実そうした方々に支えられた」と振り返る笹原先生、その実践の重みと深みが

伝わりました。「子どもへの深い愛情に裏打ちされた実践に感銘」「つながりを大切にする姿勢を大事にしたい」などの感想が寄せられました。(要旨と感想は別掲)

今夏、滋賀県で開催された全国教育研究集会に参加した二人のレポーターが環流報告を行いました。

市来健さん(江差小学校)は、国語科教育分科会での発表と討論の様子を伝え、子どもの内面を潜らせる実践の課題を提起しました。

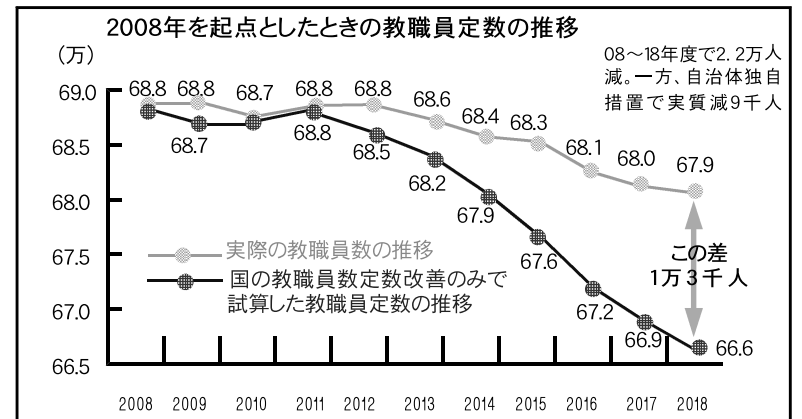
遠藤美由樹さん(今金小学校)は、障害児教育分科会で通級指導の取り組みを発表、共感的に受け止められ元気をもらったと報告し

ました。

後半は、「学級づくりと子ども」「フリートーク」の二つの柱に別れての分科会でした。日常の様子や抱えている悩みなど、自由に話し合いました。

学級づくり分科会には7人が参加、初めて担任する学級の子どものたちとの関わり合いと苦労が出され、議論が深められました。参加者は、「話すことで荷を下ろし支えてくれる人がいると思えるそんな場だった」と振り返ります。

フリートーク分科会も参加者7人、地域と学校、学力向上と教育の営み、子どもの実態と保護者をめぐる現実など多様な話題で話し合いがすすみました。成果を求める過剰な対応の流れへの危惧が出され、課題が共有されました。(別掲参照)



ネット署名にご賛同を!

スマホのバーコードリーダーをかざすと署名の画面につながります。

せんせいふやぎ

子どもにも寄り添う教育、教師の仕事



実践報告(要旨)

笹原昌子さんの

「子どもと子どもをつなげた」と思い、「班ノート(班日記)」を一つの自立としてきた。自分の思いや感じ方を自由に綴らせ、何をどう考えているのか、私自身が子どもを分かり、そして子どもと

「子どもと子どもをつなげた」と思い、「班ノート(班日記)」を一つの自立としてきた。自分の思いや感じ方を自由に綴らせ、何をどう考えているのか、私自身が子どもを分かり、そして子どもと

部屋に一人留守を預かる子どもがぼつんといる。やりきれない寂しさを抱えているかのようない姿が焼き付き、切なくなつた。校下は両親ともに出稼ぎに出る家庭も少なくなかった」。笹原

さんのその後の教職人生を形づくる原景の一つになりました。綴り交流を軸にした実践を分載して紹介します。(報告したものを事後に本人と本紙が編集整理しました)

自分をみつめ仲間とつながる

うしの実直な思いを紡ぎたい。「オイ自分」を書いてきた当時中1年のT君。自問自答し自分に語りかける手法でこうして文字化すると、ふだん何気なく思っ

① 「オイ自分!」
 オイ!自分!期末テスト近いじゃない? オイ!自分!聞いよ!オイ!自分!聞いよ!オイ!自分!聞いよ!オイ!自分!聞いよ!オイ!自分!聞いよ!オイ!自分!聞いよ!

「役立たずじゃないよ!」と書いた仲間への綴り。事実を挙げて、

心を拾い、つながり求める宮みに感銘

実践報告・環流報告に寄せられた感想を、一部要約して紹介します。(分科会への感想は次号に掲載予定)

檜山合研領域等域集会 参加者の感想

▼多くの不登校の子どものために、関わりを裏打ちされた深みのあるお話だった。笹原先生の学級経営でいつも感じるのは「母性」。懐かや愛情の深さがちゃんと生徒たちに伝わっていく。何があるかと守ってくれるという安心感を醸し出す。私も見習いたい。

▼子どもの心に寄り添い、子どもどうしをつなぎ、子どもと親をつなぐ視点、そんな綴り方の実践がまだまだ根づいている。こういう交流の場は今日ますます大事。

▼技術の豊かさではなく、仲間との共有、自分の発見、友だちの関わり、親とのつながりなど、檜山の諸先生が大切にしてくださった視点を確かめることができた。実践報告と環流報告にも通底する「何のために書かせるのか」という大テーマに迫る話に大いに学んだ。



全国教研環流報告(概要)

国語科教育分科会 市来 健さん

1年生の「あのね帳」の実践。①共感 ②親子 ③子ども理解 ④保護者 ⑤職場を意識したつながりをねらいに。書く意欲を喚起する赤ペンを自己の課題に

檜山合同教育研究領域等集会

据えた。「サッカーにいったよ」だけの日記には「おうえんにいったおうちの人は、よさこぶかおみられて、うれしかったとおもっよ」などと入れた。

「先生、あのね、うちでタブレットやってたら、おかあさんにおこられた。むかついたよ。」と書いていたよ。さいあくだよ。」

「子どもをまるごと捉えること」の楽しさと難しさを痛感。世界観を広げる赤ペンの効用についても考える。教材価値や子どもの学びを軽視した「活動主義」が危惧されている。しっかりと子どもに向き合いたいと思う。

▼子どもの心に寄り添い、子どもどうしをつなぎ、子どもと親をつなぐ視点、そんな綴り方の実践がまだまだ根づいている。こういう交流の場は今日ますます大事。

▼多くの不登校の子どものために、関わりを裏打ちされた深みのあるお話だった。笹原先生の学級経営でいつも感じるのは「母性」。懐かや愛情の深さがちゃんと生徒たちに伝わっていく。何があるかと守ってくれるという安心感を醸し出す。私も見習いたい。

▼子どもの心に寄り添い、子どもどうしをつなぎ、子どもと親をつなぐ視点、そんな綴り方の実践がまだまだ根づいている。こういう交流の場は今日ますます大事。

② 「役立たずじゃないよ!」
 Yの書いたことにコメントします。私は、Yは役立たずじゃなく、掃除だって室まで率先してやる色全部ふくめて私は、Yは役立たずじゃないと思うよ!!。(後略)

③ 自分が嫌い
 自分が嫌いだ。性格も態度も。3学期から自分が大嫌いだ。(中略)部活でも絶対不調でいらついで、キレてしまつて、素直じゃありません。今、最低な性格と素直じゃない所直したいな?直したい...

④ 思春期
 今日急に思ったんだけど、みんな最近「思春期」って言葉をよく使ってるけど、ハッキリいって、私はよくその言葉がわからない。みんな自分がキラキラか思ったりしているみたいだけか?ってことか、思春期にほど遠いのかも!?ってゆうか、今の自分に思春期のことなんて余裕すらなかった。日々の生活で精一杯って感じ。けど、いつかはちゃんと思春期がくるようにがんばる!

④は15年前の中1生徒の班日記。得体の知れない「思春期」というものが、大人への通り道だという漠然とした感覚。「いつかはちゃんと思春期がくるようにがんばる」の言葉がほのぼのとしていてあたたかい。紹介した綴りは、かなり以前のも

のや最近のものまで時代の隔たりがある。でも、底に流れる子ども期の感性は通じるものがある。個人的な相談事などは個別に対応。班ノートの約束事は人を中傷しないというこころい。子どもどうしの響き合いを大切にしたい。

(次号に続く)